

令和6年度第1回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録(概要版)

1 日時 令和7年3月19日(水) 午前10時～午前11時55分

2 場所 市役所2階204・205会議室

3 出席委員

須田委員、渡邊委員、塩野委員、田辺委員、熊谷委員

4 議事

(1) 委嘱状交付

(2) 市長あいさつ

(3) 委員自己紹介

(4) 正副会長選出

(5) 正副会長あいさつ

(6) 報告事項

令和5年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金および物価高騰対応重点
支援地方交付金による実施事業について

(7) 協議事項

第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和5年3月改訂版)の推進について

(8) その他

次回の開催について

(配布資料)

資料1 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会設置要綱

資料2 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会委員名簿

資料3 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会の会議の公開等に関する取扱要領

資料4 令和5年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金および
物価高騰対応重点支援地方交付金を活用した事業一覧

資料5 第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和5年3月改訂版)

資料6 青梅市人口ビジョン(令和5年3月改訂版)

資料7 第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略重要業績評価指標の状況

発言者	会 議 の 概 要
	(開会) (1)委嘱状交付 市長より各委員に委嘱状を交付 (2)市長あいさつ (3)委員自己紹介 各委員より自己紹介 (4)正副会長選出 田辺委員より熊谷委員が会長に推薦され、全委員から承認 熊谷委員より塩野委員が副会長に推薦され、全委員から承認 (5)正副会長あいさつ
事務局	(6)報告事項 令和5年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金および物価高騰対応重点支援地方交付金による実施事業について ＜資料4を用いて令和5年度実施事業について説明＞
委員	子供食堂への寄付金が40～45万とあるが金額的にどのような配分になっているのか？
事務局	法人よりご支援をいただきつつ日々の食事提供がなされているかヒアリングをし、物価高騰による影響を0からではなく運営形態から上がっている所の支援をしていく観点で金額を決めている。
会長	キャッシュレスの決済に関して、国からの助成であることを知っているのだろうか？折角なのでもう少し周知した方がいいのではないかと利用している人とそうでない人の不公平感が出るのではないかと。今後は対策を検討いただくと広がっていくのではないかと。
事務局	担当課に伝える。
委員	PayPayを利用している世帯別、市民の割合等数字的な理由で実施しているのか？

事務局	この事業を実施するに当たり商工会議所に協力していただき、市内の店舗で何のキャッシュレスが使われているのか調査した結果PayPayを利用することとした。 以前、商品券の発行も実施したが、事業者から換金の手間の問題があった。
委員	学童保育所の支援支給について おやつが各学校によって差がありすぎるとの聞いた。
事務局	物価高騰を受けての固定支援を使っていた方がいいが、日ごとに内容が変わるのであれば運営形態の事例だと思われる。担当課に伝え意見を聞いてみる。
委員	学童保育の委託先は、数か所あると思うが、今後子供たち同士で差別化を感じることはないよう補助してほしい。
委員	幼児教育について 幼稚園、保育園での事業継続内容について伺いたい。大学でも、コロナ禍でリモート化が進んだ際に、WEB 環境の整備が必要になるなどがあった。保育園や幼稚園もそれぞれの園ごとに教育方針が違うので、具体的にどのような事業が支援されているのか、事例を聞かせてほしい。
事務局	令和2年から3年前半は、感染対策における対象者に、コロナが下火になってくれば世界情勢からの物価高騰に伴う経費の上昇など家庭に負担が増えていき、保育施設の安定的継続のため支援させていただく上乗せ分となる。 具体例としてコロナ禍に教育を継続させていくため子供たちにタブレットの支給を行い、電子化も進めた。
委員	農家の支援は、国からの推奨事業なのか？
事務局	国からの推奨メニューとしての例がある。例えば、公共交通機関、福祉施設、学童等。市内の農家も物価高騰による支援を行った。
委員	非課税世帯や低所得者向けに圧倒的に資金を費やしている。これも国からの推奨なのか？
事務局	国からの推奨メニューとは別に低所得者向けに一定額の給付は、医療向上の観点から支給する。自治体によっては、事業者に回すこともある。 (7)協議事項 第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和5年3月改訂版)の推進について

	<資料 5、6、7 を用いて第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進について説明>
会長	支援をうけて創業された数字が掲載されているがどのような仕事で創業されたのか？
事務局	青梅商工会議所主催の創業支援塾で経営に対する規制等学んでもらい、市内で事業展開に繋げていく。
委員	宿泊者は、どの当たりで宿泊されているのか？
事務局	具体的なデータは、持ち合わせていないが御嶽山地区。子供たちの合宿など民間教育等で利用されている。
委員	子育て世代をターゲットに定住促進について 弊社の職員に低学年の子供が学童の抽選に落ちてしまって預入先が見つからないとのこと。地域によっては学童のキャパを超える人数となっているケースがある。子育て世代にターゲットにして行くならこういった問題点をどうクリアしていくのか考えてほしい。
事務局	ご意見として担当課に伝え対応していく。
委員	指標に示されている「自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と感じた児童生徒の割合について、令和 5 年度の時点で基準値は超えているが、目標値が令和 5 年度の状況よりも低く設定されているのには理由があるのか？
事務局	目標値を立てた時期が令和4年末。翌年度終了地点で目標をクリアした。教育委員会では、さらに目標値を上げていく。
委員	子供の出生率が減っている現状からして目標が厳しいと思われる。市として、子供が誕生した世帯に何か対策する考えはあるのか？
事務局	ここ数年の出生率が低下している。合計特殊出生率の計算の仕方として16歳から20歳までの女性が転入してくれば分母に加わる。シンプルにしても人口減少となる。
委員	青梅駅前にマンションが建設されていて、そこに若い人たちが転入してくれば人口減少に歯止めがかかるのではないかと？ 生産年齢に達すると転出してしまう。

事務局	市長も子育て支援策として保育園の無償化等様々な政策を展開している。
委員	人口減少は、深刻な問題だが、青梅市は外国人の受入れをどのように考えているのか？
事務局	外国人雇用した場合はハローワークに届出制度があり、右肩上がりで増えている。
委員	増えているように思える。奥多摩町は、日本語教室や異文化交流をしている。労働人口が減少している中、特に介護関連等の仕事は外国人に頼るしかない。
事務局	令和6年1月1日で 2,550 人。介護施設や製造施設で従事されている。
会長	趣味でドローンを飛ばしているが、規制が厳しく飛ばせる地域が少ない。この付近で地域限定で飛ばせる～ドローンの町青梅～とアピールしていけば青梅も活性化するのではないかな？
委員	青梅市と消防署と災害協定を結び弊社も一機持っている。航空学園と協力して小中学生に体験会も開催。青梅発のドローンパイロットを育てる構想もあるのでは？
委員	明星学苑青梅校(明星学苑は学校法人日本航空学園に 2024 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日まで無償供与の予定)は、交通の不便さをデメリットとして指摘されたこともあるが、豊かな自然環境が整備されているので、そのことを活かし、人を呼ぶアイデアなどを協議する機会があってもよいと思う。ドローンを飛ばせる広さも確保でき、季節ごとの樹木観察なども行える。いずれは青梅市民にも、この環境が活用されて、生活がより豊かになるように還元されると良いと思う。
委員	市民が今後も住み続けたい理由として自然環境の良さがある。
委員	SNS の発信もしている。条件付きで市民がプロモーションすると市民目線でいいところの発掘とし、それをシティプロモーション課が推奨していくと海外に向けてもアピールできるのではないかな。
委員	自然の中で登山客も増えていて、何か青梅にとどまってもらえるもの。記念シールやバッジを出すなどアイデアが必要である。
委員	青梅を訪れた人が、もっと長くどまりたくなるような、例えば食に関連する企画などを、若い方のアイデアも取り入れながら考えていけるとよいのではないかな。

委員	市内に若者が来ている。コミュニティをうまく繋げるといい。色々な方たちとのコラボして発信していければいい。
会長	(8)その他について事務局からなにかあるか。
事務局	特になし。 次年度の開催については、各委員にまた日程調整させていただく。
会長	以上をもって終了とさせていただく。 (閉会)